

モデム共有デバイスを使用した STUN の設定

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、モデム共有デバイス (MSD) とシリアル トンネル (STUN) を設定する設定例を紹介します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメントの表記法の詳細は、「[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)」を参照してください。

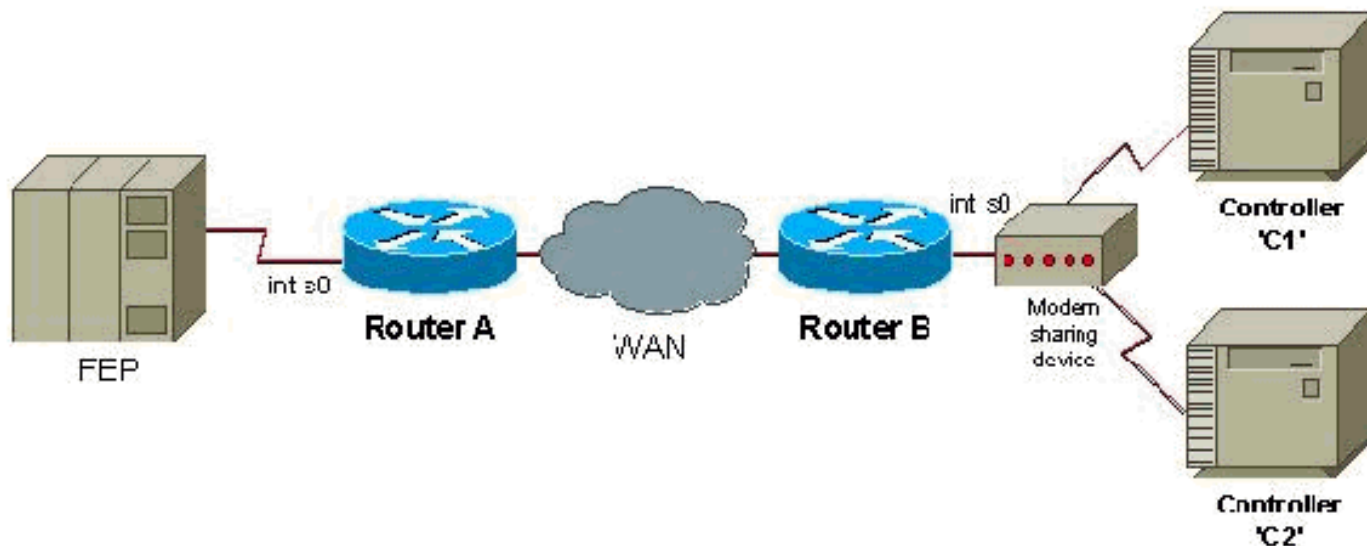
設定

このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供しています。

注：この文書で使用されているコマンドの詳細を調べるには、「Command Lookup ツール」を使用してください（登録ユーザーのみ）。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク セットアップを使用します。



設定

このドキュメントでは、次の構成を使用します。

- [ルータ A](#)
- [ルータ B](#)

ルータ A

```
stun peer-name 1.0.0.1
stun protocol-group 9 sdlc

interface serial 0
encapsulation stun
stun group 9
stun route address c1 tcp 5.0.0.1 local-ack
stun route address c2 tcp 5.0.0.1 local-ack
stun sdlc-role secondary
sdlc address c1
sdlc address c2

interface loopback 0
ip address 1.0.0.1 255.255.255.0
```

ルータ B

```
stun peer-name 5.0.0.1
stun protocol-group 9 sdlc

interface serial 0
encapsulation stun
stun group 9
```

```
stun route address c1 tcp 1.0.0.1 local-ack
stun route address c2 tcp 1.0.0.1 local-ack
stun sdlc-role primary
sdlc address c1
sdlc address c2

interface loopback 0
ip address 5.0.0.1 255.255.255.0
```

注：ルータがDCEデバイスとして機能する場合、MSDに接続するルータは半二重を使用するか、Data Terminal Ready(DTR)のハイをストラップする必要があります。また、IPルーティングとWANの設定は表示されないため、簡単です。詳細は、ドキュメント『[シリアルトンネリング \(STUN\)の設定とトラブルシューティング](#)』を参照してください。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)